

# 大久野通信 vol.20

芽吹きの際節に



4月初旬の寒波で、今年の活動拠点では桃と桜の花が同時に開花しました。筈は裏年に当たりますが、そこそこの本数が顔を覗かせています。芽吹きの際節を迎えた4月中旬、いつものメンバーから地元の特別ゲストまで総勢20名近くの方々にご参加いただき、「タケノコ・パーティー」と称したイベントを開催しました。タケノコを掘りバーベキューするといったシンプルな内容でしたが、地元を盛り上げ様とする若い方々と交流することが出来ました。

## INDEX

- ・新たな出会い
- ・大久野倶楽部の「こと」…その後
- ・今後の展望

## 新たな出会い

日の出三六会さんは、昨年度で惜しくも解散となりましたが、思いを継いで自主活動を続ける先輩たちにも参加いただきました。[SynCS.Lab](#)さんの仲介で、地元の若い方々にも声を掛けていただきました。取れたてのタケノコなどを味わいながら、彼らの思いや活動内容を知り、我々の活動もお話するなどして、活気に溢れたイベントとなりました。同じ思いで活動する仲間が身近にいることを知り心強いと同時に、我々の目指す「こと」を早く形にしてその一翼を担いたい、そんな思いを新たにしました。



タケノコ・パーティーの様子



自然の恵み、今年のタケノコ

## 大久野倶楽部の「こと」…その後

竹炭製造は4月末で今年分を終了、約4ヶ月間の生産量は1tを超えました。大久野倶楽部は、平日腐植物質の研究・調査を行っており、廃竹由来の竹粉・竹炭・腐竹液などにも範囲を広げています。腐植物質は、メタン生成菌を不活化する作用があり、これまでの調査で竹炭でも同様の挙動が確認されました。また、窒素とリンが豊富なRBSゴールドに不足する加里成分を竹炭で補うことで、新たな価値が生まれるのかフィールド実証も始めました。更に、バイオ炭に関して研究されている方々とも繋がり、今後J-クレジット適用を含めた竹炭の用途調査も進めます。伐採した竹に価値が生じれば整備人口が増え、美しい里山が蘇り地域活性化に繋がるのではないかと、そんな思いで大久野倶楽部は今後も「こと」作りに励みます。



フィールド実証の準備



竹炭有無の育成調査(トウモロコシ)

## 今後の展望

RBSゴールド性能評価をすべく、耕作放棄地を耕すところから始めた活動は3年目に突入しました。会社を飛び出して行動することで、里山を整備すべく活動している人々とも交流が深まり、地域再生する「こと」を起したい人々にも出会いました。地域が抱える課題を何とかしたいという思いが、彼らを動かしています。それらの課題を直に感じ一緒に活動するなかで、エンジニアリング会社が貢献できる部分があるのではないかと感じる様になりました。エンジニアリングとは、様々な技術で新たな価値を提供することです。引き続き地域の方々と一緒に汗を掻き、交流を深めながら様々な課題をエンジニアリングしていく、大久野倶楽部が担う「こと」とはこれに尽きると考えています。